

現状の公共交通に関する問題・課題

1. 全市的な問題点と課題

1.1 住民の移動ニーズへの対応

- ・アンケート結果から、住民の約9割の方がコミュニティバスを利用しておらず、その理由としては、「他の移動手段があるから」が最も多いが、「行きたい場所まで行けない」、「乗りたい時間帯にバスが無い」、「バスの便数が少ない」など、住民の移動ニーズと適していないことが理由としてあげられている。
 - ・一方、普段の生活で出かける主な目的は「買物」が最も多く、また、コミュニティバスの改善後に行きたい目的地も、市内及び市外の商業施設（スーパー等）が多い状況であった。
- ⇒住民の多くは、「買い物」に出かけたいニーズがあるものの、現在のコミュニティバスでは、「買い物」へのニーズに対応できていないことが分かったことから、今後は、住民の移動ニーズ（買い物等）に対応した公共交通を確保することが必要である。

課題①：住民の移動ニーズ(買い物等)に対応した公共交通の確保

1.2 高齢者への対応

- ・葛城市では5年後の2020年（平成32年）には約3割の方が高齢者となっており、今後、ますます高齢化が進展する状況である。
 - ・一方、アンケート結果から、現在の公共交通に対して、4割の方が「不便に思う」と回答しているが、今後の公共交通については、4割の方が「将来利用したい」との意向もある。
 - ・また、自由意見でも「高齢になると車の運転ができなくなるので、今後も継続してほしい」などコミュニティバスの継続運行に関する意見が多い。
- ⇒以上のことから、今後は、高齢者の日常生活に必要な移動手段を確保することが必要である。

課題②：高齢者の日常生活に必要な移動手段の確保

1.3 行政負担の抑制

- ・これまで葛城市のコミュニティバスの運行経費は、年間約2,000万円かかっていたが、平成26年10月からの当麻新庄線の運行により、更なる費用負担がかかっている。
 - ・また、アンケート結果から、今後の公共交通に対しても「利用者を増やすことなどにより、市の財政負担を減らし、運行を継続する」を望んでおられる方が26%であった。
- ⇒以上のことから、利便性向上に伴う行政負担の増加を抑制する必要があることから、今後は、有料化及び効率的な運行による持続可能な公共交通を確保することが必要である。

課題③：有料化及び効率的な運行による持続可能な公共交通の確保